日刊　（明治四十一年七月四日第三種郵便物認可）　明治四十一年八月六日　京城新聞　（木曜日）　第廿八號　（一）

京城新聞

●偶感一束

翠山生

官撰民長に對する輿論の反抗熱は今や高に達し滔天の勢烈々として又如何とも爲難き形勢を示せり蓋し民意を根本とし衆を基礎とせる輿論政治にありては一に民の歸する所と衆心の[illegible]に鑑みて之が處理按排を圖らざるべからざるは敢て言ふもなき所なり然るに統監府の横暴にして私なる此の明瞭にして而も的確たる事理を無視し蔑如し飽迄も吾人居留民を驅つて窮窘迫の壓制手段を試みんとす愚も亦極まりといふべし思ふに過日之が[illegible]の撤廢を申請せし民團議員等に對する石塚參與官の答辭（在京中の統監に圖り其の回答を俟つて何分の沙汰に及ぶべしとのこと）にして果して僞りならずとせば吾人は事柄の順序上マヅソレ迄は或る程度迄寛恕し置くべきもソレにしても胴慾なるは統監が出發の際此の飛んでもなき置土産を遺しながら知らぬが半兵衛顔にて無邪氣なる人民に送られつゝ……而も花火迄揚げさして……圖々しく南大門を發車されたる事ならずや

●中島參謀の談宜く守備隊の實況を視察して遺憾なし、時下打ちつゞく霖雨変に晴れて赤帝一層の炎威を加ふ思ふに彼等討伐の困難眞個察するに餘りあり而も陣中彼等の娯樂としては只父兄妻子及び親戚故舊に宛て書翰を認むると上官の新聞紙を順次に閲讀するのみと蓋し荒涼寂寞たる韓内地の形象殊更らに慰藉の以て彼等の心目を欣ばすもの一として之れあらざるべし

●想起す客年今頃彼の南大門の戰鬪及び其の他京城附近に於ける彼我の衝突の際暴民の爲めに負傷せる我兵士及び憲兵等の續々として病舎に搬ばるゝや彼の愛國婦人會の會員の如きは自ら進んで此の負傷兵の看護に任せんとし申込みしとありし由なるも今は杳として是等の噂を聞くなし、否な單り愛國婦人會に於てのみならず其の他所謂世の仁慈博愛の士と雖も何等之に對して慰藉慰安の道を圖るの擧に出づるものなきが如し思ふに博愛仁慈の心は時代の流行物にはあらず服飾物には非ざるなり、吾人は讀み古るしの一葉の新聞紙にても贈つて彼等討伐に從事する兵士の許に寄贈されん事を衷心望まざるを得ざるなり

●忠州旅行記（二）

三十日忠州　清風

危く鳥致院を乘越す筈であつたが、辛うじて下車した、滊車はザマを見ろと云はむばかりに、去つて行く、車に乘つた三十才前前の三人の韓人囚も下車した、彼等は班に白衣に血跡を印して居る、多分暴徒とかいふ輩類のものであらう、先きが急がるゝまゝに、彼等の行手に氣も付けず守備隊に馳付けた、守備隊と云へば多少大きな家かと思へば、日本の平屋建とは名ばかり、本のバラックである、其れに某聯隊某隊本部と二尺に三寸の白布に記してある、此の家の格納で大凡そ駐屯軍の不自由が察せらるゝ寢室と食堂と事務室と一所じや、僕等は身の過福を恥ぢると共に、軍人諸士の困難に一見同情の念を起した、出來得る事なら今少し軍人諸士を優遇してもらいたいものだ、戰時なれば大に慰安の道も付けるのであらう、然も今日となつては、何等軍人を慰安するものはないやうである、僕の見た處は單に外形のみである、眞に軍人諸士に接して辛苦艱難の狀を聞く事が出來たならば如何に慘憺たるものであらう、涼風を追ふて消夏法等に腐心する輩は炎天に暴徒討伐に出掛ける命がけの軍人を見て、頂門の一針として貰ひたいものじや、偷安を事とする京城のバチルス共は身の過福を恥ぢて多少軍人に同情する處があつてよからう、（此の事に付ては追て詳述する時があらう）

守備隊に入つて、ドウか護衛を願ひますと頼んだ、伍長らしき人が京城から御出でゝしたかと問ふ、そうですと答へた、今日は運送の爲め馬六七十頭出したので、兵が少ない實は御出を待つて居たのですが、餘り遲くなるので出發して兵が少ないが困つたと大に迷惑らしき模樣である、一寸待つて下さいと隊長らしき人の處へ相談に出掛けたすると、隊長らしき人が出て來て、京城から來た人は君ですかと云ふ、實は兵を多く出してと伍長と同じ事を云はれる、其の内に伍長らしき人に兵二名武裝して來いと命令した、伍長は兵に命令した、其の内に隊長は自分の名刺を出して來て、君忠州に行かれるなら、清州には日本旅館があるが清安、陰城にはないから、僕の名刺を持つて清安の守備隊へ一泊なさい、其所には部下の伍長が居るから便利を計るでしやうと云ふ、やあ、難有と深く禮を述べて其の名刺を見ると驚いた、其の人は僕が鼻垂れ小僧の腕白時代に同じ學校に居た人じや、やア君は○○の○○ではありませんか問ふと、先方は一向に僕を知らざるものゝやうで、そうですと答ふ、はあそうですか、僕は此んなものですが、も御忘れでしやうと云ふハア、そうですか、と深く考へて居たが、ふうんと分つたやうであつたが其の時は早や武裝した兵士二名僕の後に整列して命令を待つて居る、で僕は話を止た、隊長は懇篤なる命令を兵士に與へた、僕は後日を期して別れ、兵士二名に護衛され暑くるしき田舍道を二三丁來た、餘り無言なのも興がないから、どうです隨分此んな處は困るでしやうと口を切つた、否や内地に居るよりか、呑氣ですよ、内地に居れば此の炎天に行軍や練兵があつて、却つて困る位です、そうですかお國はどちらです、熊本です、はあそうですかと、其れから古郷の話に移つた、古郷の變化や舟遊の事や、不景氣の事や、知人の境遇やが其れから其れへと出てくる、隊長はドウです好い人でしやうと云ふ、はアと力を入れて隊長は好い人です中々出來る人で、師團でも一二と云はれて居ます（未完）

小說　新不如歸（七十二）

篠原嶺葉著

百合子はまた潸々と涙を流して、

「吁々奈何考へて見ても、一度お目に懸つて私の心の中を打明けなければ、死……死ぬにも死なれない、だけれども、若も病氣が重くなつて……御歸朝なさるまでに、ひよつと、死……死ぬやうな事でもあつたらこれほどお慕ひ申してる心の中をお話し申さずに、あの……暗らあい……つ、つめたい土の中へ、唯た一人で行かなきやならない、若し敏男さん—」



と、涙に聲を曇らせて、敏男の其處に居るかのやう、

「百合は、貴方が御出發なされてから、母樣や、足柄のために一方ならん心配致しましした爲に、こ……こんな恐ろしい病氣を起しましてございます、その上ならず覺えもない濡衣を被せられまして、到頭離縁されましてございますが、あ……あなたの事は片時だつて忘れた事はございません、どうぞ私が無事で居る中にお歸り下さつたら……是非一度お目に懸つてこ……この苦しい胸の中をお話し申してお別れ致したいと、そればかりを樂しみにお待ち申して居ります、けれど、若もお歸りなさるまでに、死……死ぬやうなことでもございましたら、私が貴方をお慕ひ申してる心の中を、遺書して母に頼んで置きますから、どうぞ其れにて私の潔白をお察し下さいませ、そ……そして可愛想だと思ふて下さつたら、ど……どうぞ一度で宜しうございますから、墓……墓地に〳〵あ……あなたにお出で下さいまし、私……私はそれまでは假令體は死……死にましても、精神は死なずにお待ち申して居ります。」

云ひつゝ、溢り落つる涙を拂はうともせず懐中より一通の書面と一葉の寫眞を取り出して、懷慕しさうに交々〳〵打眺めて、

「ねエ貴方、私このまゝお目に懸らずに死で行くやうな悲しい目に逢ひましたらこのお書面とお寫眞さ、そしてお取交し申しました此の指環とは、貴方と思つて冥土に持つて參りますゆゑ、貴方も日外此の巖の上でお約束申したことをお忘れ遊ばさねば、假令お美しい奧樣をお迎へ遊ばしましても、あの指環を百合と思召して時々は眺めてやつて下さいまし、妾は貴方と蜜月の旅を致しました時、此の巖の上で兩人腰を掛けて將來の事など話合つた樂さが、何ぼうにも忘れかねますので病氣保養を幸ひに懐かしい大磯の招仙閣に參りまして、今は樂みの多かつた巖の上で、唯た一人で泣いて居ります。」

と、沈みながら顔にはろ〳〵と流るゝ涙を象牙細工の如き、眞白き小さな兩の手に押ゆれば、涙は指と指との間より洩て、膝の上なる寫眞と手紙に點々と滴るのである。

「まあ、お前此處所に來てたのか、あんまり歸りが遲いから奈何か爲はせんかと、方々探しましたよ、もう三時ですから夕風に當ると體に障ります、さあ〳〵歸つて往きませう」

と、突然に聲を掛けたは母の樣子であつた百合子はハッと驚きつゝ、手早く寫眞と書面を懐に納め、出る涙を袖に拭ひつゝ、

「あんまり景色が可いもんですから、ツイ遲くなりました」

云ひつゝ、何氣なく母と共に歸るのであつたが、母は早くも涙の顔を認めて、徐に暗涙を催した。

京城新聞

救恤金と損害賠償

昨夏政變以來暴徒の爲に慘殺せられ或は財產を掠奪せられたる在韓邦人の損害賠償に就て余輩は當局者に向て警告したることあり、當局者に於ても夫々調査せられて韓國政府に向て相當の要求をせらるゝことゝ思ふて爾來其成行を注視するに今尙ほ此事に關して韓國政府と何等の交涉もなさゞるが如し、當局者は此悲慘の問題を如何に解決せんとする乎、一年有餘を經過するも之を■■して顧ざるが如きは何たる冷酷ぞや、保護國たるが爲に邦人の生命を犠牲にするが如きことはなかるべし、若し夫れ保護政策の爲に同胞の生命財產を犠牲に供するが如きことあらば統監政治は帝國民の發展を害するものとして呪はるべし、惟ふに人道を重ずる伊藤公が統監たるに於ては之を閑却するが如きは斷じてなかるべしと信ずれども、由來伊藤公の人道主義は韓人及び外人に■■■るゝ傾ありて、在韓邦人に對しては冷淡なるの感あり、之が爲に余輩は悲慘■はずる此重大問題まで閑却するにあらずやとの■念は生じ來るなり、誰か余輩の懸念を■■■なりとするものありや、然るに豫て傳へられたる、韓皇陛下の下賜されたる救恤金は內部大臣の手より我統監府に回付せらるゝ事となり統監府の調査に係はる邦人の被殺者百二十五人、燒棄されたる家屋三十二戶、被殺者一人に付拾圓宛、燒家一戶に付拾貳圓宛近々賜與さるゝと云ふ、■■■より救恤金として下賜せらるゝもの■■■は感謝の意を表するの外あらざるなし、然れども救恤金を分與せらるゝのみにて所謂なる本問題の解決を緩ならしむるが如きことあらば由々敷大事なり、全体當局者は同胞被殺問題に關して韓國政府に如何なる交涉をなし居る乎、世人は一年有余何等の沙汰なきを以て不問に付するに非ざるかと懸念するもの尠からず一說には保護政策上損害賠償の如き問題を提出する場合に非ざるを以て不問に付するなりと、果して當局者の方針斯の如くなりとすれば幷は大なる誤謬なり、而して同胞に對して余りに冷淡なり、爲政者の都合により被殺者損害賠償の交涉もなさずとすれば、其遺族を如何にすべきや、斯くては國民の海外發展を阻遏するに至るなり、若し之が歐米人なりとすれば如何、保護國なるが爲に殺され損として默すべき乎、否一人の牧師が土匪に殺害されてさへ國際問題を惹起し、軍艦を派遣せるが如き例は枚擧に遑あらざるに非ずや、保護政策と在留人の生命問題とを混同すべからず、如何に韓國人の歡心を買ふに急なりと雖も、同胞被殺者の損害賠償をもなさしめざるとは無情にして對外政策の眞意義を沒却するものなり、當局者と雖も斯る無情にして怯劣の政策は取らざるべし、唯速に之を解決して在韓邦人を安堵せしむべきなり。

東京電報

▲參列委員叙勳

（平和會議）

萬國平和會議に盡力の功により都築馨六氏は勳一等に叙せられ旭日大綬章を賜ひ佐藤愛麿氏は勳一等に叙せられ瑞寶章を賜ひ倉知鐵吉氏は旭日中綬章を賜ひ秋山好古、島村速雄の兩氏は金盃一組を守山敬三郎、山川端夫の兩氏は金盃一個を賜ふ

▲能勢總領事の任地

總領事能勢辰五郎氏はオッタワ在勤を命せらる(以上五日發)

雜報

●警察部長會議（第三日）

昨五日は午前十時より開會し會計事務其の他に關する打合せをなし十一時より農商工部より中村農務局長鶴岡書記官宜家庵原村田の三技師出席し各主管事務に就き左の通り注意事項を示せり

山林局

一、國有森林の盜伐ありし時の報告に關する件
一、盜伐木材處分方依託に關する件
一、森林法違反者處分報告に關する件
一、國有森林處分に關する件
一、警察官の愛林思想を養成するため駐在所に樹種苗樹を配付する件

水產局

一、爆發物を使用する捕魚業と勵行に關する件
一、日本漁業者の風儀矯正に關する件

礦務局

一、礦山砂金の密採私掘取締に關する件
一、礦業及び砂礦業に從事する內外人に對し同一に保護利便を與ふる件
一、砂金採取のためにする土地の濫堀を取締る件

商工局

一、法定度量衡器の普及に關する件
一、旅客取締に關する件
一、會社設立發起人の身元調査に關する件
一、市場に於ける紛議取締に關する件

農務局

一、獸疫豫防に關する件

右終りて午後一時より俵學部次官出席し地方學校に關し訓示演說をなし午後三時散會せり因みに昨日は午後一時半より明石憲兵隊長出席し憲兵隊と警察の關係に付演說午後三時散會せり尙明日は午前十時開會し內部の注意事項を示す筈なり

●警視廳の豫算改定

警視廳に於ては今回官制改正の結果其管轄區域縮少したる爲め從つて其豫算も改定せらるゝことゝなり上奏中の所去る三日裁可ありたる改定豫算は警視廳五十五萬八千三百二圓、俸給七萬九千七百九十九圓、廳費三萬八千七十六圓、旅費五萬七千四百二十一圓、雜給及び雜費二十八萬五千九百五圓、舍宅料三萬五千六百八十五圓、被服帶具費三萬五千八百九十二圓、銃器及彈藥三千百一圓、消防二千八百圓、監囚費千九百五十五圓、清潔法施行費六千五百圓、機密費一萬千二百五十圓にして既定豫算に比すれば十二萬三千六百九十六圓の減額なり尙ほ地方警察費は百四十三萬六千四百三十二圓にして既定豫算に比し六萬千八百四十八圓の減額となり居れり

●城壁處理委員會廢止

京城及び各地方の城壁處分は城壁處理委員會の決議を經て實行せらるゝ事となり居れるも同會には委員長以下委員の外專任の職員無く單に內部にて調査したるものを形式的に委員會の議に付するの現狀にして却て事務の澁滯を來す恐れあるを以て寧ろ右の處分は內部大臣をして專行せしむるを便宜とすとの說あり城壁處理委員會は廢止せらるべしと云ふ

●岡次官の訓示演說

警察部長會議に於ける岡內部次官の訓示演說は左の如し

這回諸君を召集せし所以は只今大臣の訓示の如く官制改革に伴ひ警察制度の變更となりし結果將來に對する方針及び官制改革の內容等殊に中央の意思を示さんが爲めなり其の大体の趣旨は先に大臣の訓示により了解せられたることゝ信ずるを以て本官は少しく微細なる事項に涉りて一言せんと欲す諸君中には外務省時代より奉職し又は顧問時代に若くは統監府時代に至り奉職せらるゝもあり又韓國官吏として新に任命せられたる者もありて其任命の時代も前後し又組織の上に於ても種々の區別ありしことなりしも如斯諸君が打て一丸となり相集りて斯の職に盡さるゝに至りしは實に今回を始めとす諸君の就任時期は各長短あるも昨年以來暴徒諸所に蜂起し此れが鎭定のためには全力を注がるゝのみならず守備隊憲兵等の間に立ち犬牙錯綜せる諸般の事務を整理せられつゝある多大の盡力に對しては本官も大に感謝する次第なり尤も暴徒は守備隊の非常なる盡力により今日に至りては稍鎭定に赴きたるも未だ全く殲滅せりとは稱すべからざるにより此の際一層諸君の勵精を希望す

這回制度の改められたる根本の原因及び其の方針は過日統監及び大臣の觀察使等に對する訓示の趣旨に出るに外ならず該訓示事項の筆記は當時觀察使及び各警察署に送付せるも諸君の內未だ落手せられざる方あれば更に配付すべきにより能く其の意を諒せられたし偖て中央の機關は各部官制の發布に伴ひ施設漸々其の緖に就きたるも地方の機關は職員の不足なると殊に交通運輸通信等の不便なるが爲め其の制度の發達進捗を阻害する事少からず頗る困難を感じつゝあり然るに制度を刷新して其の發達を計ると云へば先づ地方を刷新するの基礎にして地方の發達は取りも直さず中央の發達を完全ならしむる所以なり這回の刷新改善は獨り警察行政に止らず地方行政の刷新も畢竟此の趣旨に外ならず其の他一般の行政事務に於ても尙然り今後幾多の形に於て改革の實行せらるべきもののあるべきも先づ第一に現れたるは警察制度の改善を實行せられたるに過ぎず是より漸次研究を積み諸君と共に其の改善刷新を期せんとす

事務の取扱方其の他會計整理の點等に關しては警務局長若くは會計課長等の意見を聞かれて整理せられたきも茲に職務執行の上に就て特に注意すべきは即ち職務執行を嚴重にすべきことは是なり元來韓國に在る日本人官吏は警察官たると否とを問はず最初より種々なる批難もあり又賞賛せらるゝ事柄もありて其の功績に於ても見るべきもの無しとせざるも就中警察官は職務柄最嚴重なるべきものなるのみならず直接人民に接する事多きがため非難も功績も他に比し人民に感動を與ふること大なるが故に特に一層規律の注意を拂ひ規律を嚴肅にせざる可らず規律の嚴肅とは啻に姿勢禮式等外部に現はるゝ規律動作のみならず部內に於ける規律的精神を修養すること最肝要なりとす苟も一巡査の非行と雖も延ては警察行政の上に多大の影響を及ぼし終には諸君の責任をも亦此れを問はざるべからざるに至る故に忠實の心を基とし一般人民に對しては可嚀親切を旨とし公私の區別を明にして出來得る限り嚴正忠實に職務を執行せられん事を特に望む所以なり又韓國に在りては警察官本然の職務たる喧嘩の取締盜賊の捕縛等のことのみならず苟も善良なる事柄なれば此れを諭し又教訓して人民の幸福を增進せしめ以て一般人民の安堵する樣懇篤親切ならざるべからず斯く申上ぐるも豫算上の關係よりして諸君の手足たる警部巡査の數は至て少數にして日本等に此れを比較する事能はず固より充分の配置と云ふを得ず到底完全なる職務執行は困難の事なるべきも能く此れを善用して出來得る限り大なる功績を擧げられん事を望む唯人員不足の故を以て何事をも此れに藉し出來ずと云ふの一事を以て其の職務の不周到の責を免るゝと云ふ事は本官の執らざる處にして少數なる日韓人警察官も能く此れを指導教養し遺憾なきを期せらるべし(未完)

●獸疫豫防に就て

獸疫豫防に關し農商工部より警察部長會議に示したる要領に依れば獸疫は農業經濟上及び公衆衛生上至大の關係を有し其の一朝發生流行するに當りては獨り農民の資產を蕩盡するのみならず農耕運輸及び交通を妨害し且つ畜產業の改良發達を障碍すること意料の外に在り故に此等の慘害を救治し畜產業を保護し公衆衛生の保安を圖るは國家の一大急務なり而して從來の經驗に徵するに當國に發する獸疫は牛疫、炭疽、流行性鵞口瘡、豚疫及び狂犬病の五種にして就中牛疫は四五年目毎に大流行を來して一時に多大の損害を與へ眞に慘憺たる悲劇を呈せり炭疽は牛疫と異なりて大流行を來さずと雖も各地に於て其の發生の跡を絕たざれば此れを累計すれば被害決して少しとせず流行性鵞口瘡は蔓延迅速にして多數の牛群を襲ひ斃死數は少きも一時牛畜牛使役を妨げ豚疫は傳播猛烈にして此れに罹れば大抵斃死を免れず狂犬病も所々に發生して公衆に危害を及ぼせり如斯獸疫に基因する損害は莫大なるも未だ防疫機關の整備せざる今日に在りては獸疫の發見及び其の豫防上緊急の措置は主として警察官に待たざる可らず殊に目下日本に於ては牛疫發生して本年七月二日初發以來二十五日に至る迄二府十四縣に蔓延し其の發病數千有餘頭に達し尙其の勢猖獗にして停止する所を知らざるの現況に在り而して其の初發は韓國より輸入したる牛畜に在りしが故に日本に於ては當國を牛疫の本源地と認めたるが如き傾向ありしを以て本部は各地警察署に警電を發して牛疫發生の有無を調査せしに咸鏡北道會寧を除くの外未だ牛疫發生の報告無ければ今回日本に發生したる牛疫の病毒は當國より齎したるものに非ざるが如しと雖も現に當國に隣接せる滿洲には牛疫流行の形跡あれば此の際周到の注意を拂ひ嚴密なる警戒を加へ以て牛疫侵入の途を杜絕し併せて當國在來の牛疫を防遏せざる可らず

●外人等の恐慌

京城在留の外人中所謂治外法權を楯として自己の名義を以て借入たる家屋を賭博場と爲し韓人等をして使用せしめつゝあることは先々月本紙が探知して紙上に報導したるところなるが其筋に於ても爾來注意を怠られず遂に一昨日の手入となりたるを以て從來不正の利得を收めつゝありし外人等は目下恐慌を起して善後策を圖りつゝありと云

●仁川大演說會

民長官撰問題に對する京仁民間新聞社合同の大演說會は過日京城歌舞伎座に於て開會したるが尙ほ本日午後六時より仁川歌舞伎座に於て同大演說會を開くことゝなりたるが非常の盛況を呈すべし

●京仁間終列車增發

京仁間鐵道線路は水害復舊工事の夜間作業上深夜の運轉を避くるの不得止狀態にありしが現行假運轉時刻は終列車の時間早き爲め不便の點あるを以て鐵道管理局にては今六日より左の時刻にて京仁の双方より終列車を增發することゝせり

仁川方面行終列車
南大門發午後十時五分　仁川着午後十一時四十六分

京城方面行終列車
仁川發午後十時四十分　南大門着午前十二時廿一分

●釜山鎭埋築着手期

一時延期したりとか中止せられたりとか傳へられし伯爵後藤猛太郎氏等の事業に係る釜山鎭の埋築工事は外國に注文中なる埋築機械パイプズレッジャ及びバケットズレッジャ等は今後七ケ月後には到着すべきを以て來る四十二年三月頃より埋築工事に着手することゝなるべしとのことにて之が經費は約四百萬圓を要する豫定なりと

●京城民會

明七日午後二時より京城居留民役所樓上に於て居留民會を開き左の件に就て議する筈なり

一、明治四十年度決算報告の件
一、軍用地借用の件

其他緊要事項數件なりと

●關稅調査

地方守備隊附屬御用商人等は名を納品に籍りて關稅逋脫の物品を一般に販賣し居る事は既報せしが此れにつき憲兵隊に於ては其後專ら關稅の輸入原簿及守備隊所在地に隊員を派して專ら調査中なりしが聞く所によれば其調査も餘程進捗し日ならずして其犯人を處分するの運に至るべしと

●夏期講習會開設

京城敎育會に於ては本日より京城第一尋常高等小學校に於て夏期講習會を開くと云ふ

●仁川材木組合會場

從來仁川材木商組合の集會は幹事の自宅に於てなし來りたるが今後商業會議所樓上を使用する事となれり

●財產整理局出張所設置

臨時財產整理局にては今回平安南道平壤、慶尙北道大邱全羅北道全州の三ケ所に出張所を設置し土地測量に關する事務を取扱はしむることとなせり

●仁川水害修繕費

過日豪雨の際仁川市中の道路下水等の損害夥しきは當時報導したるが其後之れが修繕につき調査したる結果修繕費は約四千圓餘を要する事となれり然れども現在民團の豫算中に右金の餘裕なきを以て止むを得ず民團事務費を減じ是れによりて生じたる一千十九圓を以て一時假修理を施す事に決したりといふ

●平壤の水害

去る十九日以來の降雨にて大同江增水し平壤に水害ありし事は既に電報に據りて報導したる處なるが今其の詳細を聞くに十九日以來漸次增水して廿九日には水量二十五尺に及び日韓人の濱家四棟浸水家屋百六十五戶あり警察署は日本居留民團役所と協力して救助に盡力し日人九戶韓人二十三戶此の人員日人二十七人韓人六十七人を救助し白米壹石六斗を救恤したりと云ふ又鐵橋破壞し日本人一名溺死したりと

●組合定款審査委員

仁川信用組合定款審査修正委員推選の事は昨紙報導したるが昨日田中委員長より左の諸氏を指名推選せり

市川武吉　新井虎太郎　小笠原忠一
大河原末五郎　八田利三郎　立石幹
穎原三郎　萬玉岩吉　永井房吉
伊東武彥

●宋內相の招宴

宋內相は昨五日午後七時より官邸に副統監長谷川軍司令官任度相高法相石塚參與官倉富法部次官香阪法務院長丸山警視總監明石憲兵隊長國分檢事總長世古控訴院檢事長中川地方檢事長岡崎師團長村田恒吉兩少將警察部長一同內部の重なる高等官及び警務局高等官一同等六十餘名を花月に招待し晚餐會を催せり

●早稻田大學校友會

早稻田大學出身校友は同大學講師藤山治一氏の來韓を機とし明七日午後六時より日本人俱樂部に校友會を開き同大學第二期擴張たる理科大學部設置に付基金募集に就て相談會を催すと云ふ

●藤山治一氏

早稻田大學講師藤山治一氏は同大學第二期擴張の用務を帶び一昨日來京されたり

●平渡警視の入京

海州警察署長たりし警視平渡信氏は一昨日入京し本日內部に出頭したるが氏は今回內部書記官に任せられ地方局勤務を命せらるべしと云ふ

●南部露庵氏來京

安東新報社理事にして在安東縣佐賀縣物產陳列館長たる同氏は昨夜入京したり

●劇場視察

大韓新聞社長李人植氏は韓國の演劇を改良せん爲め日本に於ける演劇視察の爲め去る三日夜行列車にて日本に向け出發したり

●韓官辭令

八月三日付

任星川郡守　叙奏任官　道事務官　白南奎
任警視　叙奏任官　警部　市川信潤
任慶興府尹　叙奏任官　六品　李之寧
任內部書記官　叙奏任官　警視　平渡信
陞奏任官三等　財務署財務官　權重煥

公人私人

▲內田虎三郎（佐世保鎭守府參謀少佐）　滯京中一昨日出發
▲久保田政周（南滿鐵道會社理事）　滯京中一昨日出發歸朝
▲石田平吉（門司市選出代議士）　一昨日入京天眞樓
▲安藤吉兵衛（平壤林業事務所長）　一昨日上京三日月旅館

●近事片々

▲茶話●會流行して政客頻に會合す寄ると坐すると政治問題をなすは韓人の特有性乎
▲茶話●會と共に李根澤活氣を帶び來らんとすされど現時の政局根澤君の時代ならず
▲昔者●李容翊と角逐し一方の覇をなして威權赫々たる根澤君も今や鼠の如くなれり噫
▲榮枯●盛衰の理りは何處も同じなれど殊に韓國政客の浮沈の速なる河の瀨も及ばじ
▲根澤●君軍相たるとき完用君學相たり當時完用君快々として樂まず今や境遇顚倒す
▲完用●君今や位人臣を極め意氣昂然根澤君の數なき乎根澤君の將來果して如何
▲權重●顯成岐運の連中亦野心勃々と聞くされど唯徒に鬪くのみ政權爭奪の時代去る
▲政權●爭奪は最早棄つべし先覺者となりて實利的方面の指導をなせ之れ卿等の務也
▲兪吉●濬趙義淵君等も實利的方面の開拓に勉めよ興士團の如きは急務にあらざる也
▲撫順●炭礦も大仕掛にすれば東洋の需用に供給する丈け優にありと云ふ惜むべし
▲現在●にては漸く滿鐵の使用する丈に留る之等の生產費用はドシ〱支出すべし
▲放資●したるものは直に倍加し來る之等費用支出に吝なる可らず外債を起すも可也
▲米國●鐵道賃金値上げの爲に船賃まで騰貴し運搬費の增加と共に總ての物價騰貴す
▲其影●響は最も大西洋航海の汽船にあり之が爲に英佛の物價にも多大の反響ありと
▲英國●の內閣大臣ジョンバアンズ氏倫敦街上自働車衝突の中に飛込で人命を助くと
▲バ氏●は一個の勞働者より身を起し終に勞働黨に推され議員となり勢望隆々たりき
▲バン●ナマン氏自由黨內閣を組織するや招れて閣員に列す氏の在閣は勞働黨を和ぐ
▲一國●の大臣として此快擧をなし以て路上の人を助く流石は英國の平民政治家なり
▲大統●領ルーズベル氏辭職後阿弗利加に猛獸狩の快擧を試むとは兼て聞きたる所也
▲金儲●に拔目なき米人の事迚各書肆競ふて狩獵記の出版豫約を申込むもの續々あり
▲競爭●の結果一語二圓六萬語十二萬圓を支拂ふべしと申込める者あるもはね付らる
▲結局●スクリブナー出版會社は印稅を拂ふ約束にて締結さる其割合は秘密にせらる
▲十二●萬圓で承知せざる處よりすれば必ずそれ以上ならんと噂す偖一語二圓は上値

短編小說

愛(三)

青楓生投

此の門を這入つた二人連の男女、男は年の頃廿五六の餘り太からぬ脊の高い、而して鼠色の夏洋服に、パナマの帽を眞深に冠つた一紳士、名は北村繁とて、此の春渡韓した某會社の社員である、女は當世流の庇髮に白の長いリボンを垂れ、縞セルの派手な單衣物に、粋な單衣帶を結んだ態度は、今年二十三とは見受けられない、何う見ても一つ二つは若く見ゆる、是れ淸華亭に其の人ありと知られたる美妓鳶次事中山美江である此男女は、曾ては想思想戀の仲であつたのだ、繁は國の中學を卒業してのち、或理想の下に、東都遊學の事を思ひ立つて「鬼も角も將來圓滿な家庭を結ぶには、暫時の苦痛を忍んで、相當の敎育を受けねばならぬ」と、泣に惜しき別に淚を呑んで、繁は遠く學の空に上つた、實にや隙行く駒の早いもの、茲に烏兎匆々十年の昔と去つたのである。

而して繁は去年の夏、首尾克く月桂冠を戴いて、某法律學校を卒業した、之を聞いた國の役場からも、郡衙からも、實際町の爲めだイヤ一郡全体の爲めだ、目下人材に不足を告げて居るのであるから、歸國して呉よと競ふて手紙が來るだが、繁は、常に田園生活は、僕に何うしても不適當だと、兩親の切なる歸國の勸告にさへも、頑として動かない、貧しても都市生活に限ると、遂に或會社の社員となつた、久しく住み馴れし學窓を去つて、寄せては返す社會の千波萬浪に、實際的の生活に棹した彼は、愉快〳〵、艱難我に打勝つか、我れ艱難に打勝つか、一つ腕を振つて見やうと意氣勃々であつた、而して彼が敏腕家との聲譽は、半歳經たぬ間に、早くも社長に知られて、此の晩春比較的振はざりし、支店なる京城へ轉勤を命せられたのであつた、此の間繁は終始一貫、殆んど美江樣を念頭から、忘れた事がなかつたのである、況してや、渡韓してからは、美江樣は甚麼したのだらう、一体何處に居るのだらう……との觀念は、絶わざるの煩悶となつて、尠少からず胸を痛めて居たのであつた。

一日繁は、終日の疲勞の悪疲れを探るべく唯一人晩涼を迎つて、倭城臺に上つた、夕陽淡く南山に名殘を止めて、松吹く風のいとゞしく涼けさは、萬街黃金溢れ、屎尿流るゝの大路小路とは、雲泥の自然郷である、繁は默然と、只臺に腰打かけて市街を見下し乍ら、滾々として湧き來る空想に、餘念もなかつた。

「アラ貴方は、北村樣じやなくつて……」突如に後から聲かけられて彼はハット後を振り向いて、つく〳〵と其の人の顔を見る「ヤア美江樣でしたか……久潤でしたね」「矢張し北村樣だわ……れ懐しう……」

あとは言葉も頗に出です、男女は唯だ暫時珍らしそうに、顔と顔とを瞶めるのみであつた、その翌日の夕暮、二人は伴れだつて此の千歳樓、につき戀路を語るのであつた。

●七夕と甜瓜 去る三日は七夕祭の當日なりしかば昌德、德壽の兩宮に於ては例年の通り宮内官一同へ甜瓜を下賜せられ尚は諸係職員一同へも昌德宮より二百個德壽宮より九十個を下賜されたるを以て夫々分配したりと云ふ

●德壽宮の井戸浚へ 先月來の降雨にて德壽宮各宮殿内の井戸に濁水浸入し使用する能はざるに依り皇宮消防手をして井戸の浚渫を行はしめたしとの上意ありしかば同消防手は去る三日之が浚渫を行ひしに太皇帝より消防手に對し特に金十圓と眞瓜三十個を賜はりたりと

●敷島病院の交渉 仁川敷島病院は從來敷島遊廓組合の經營に係り藝妓檢梅を除きし普通患者は市中の開業醫を聘して其診察を乞ひ來りたるが今回其組織を改め民團の經營に移し居留地立仁川病院の分院とせんとて目下同廓取締及民長の會見を重ねつゝあり

●豆毛浦橋梁落成 過日豪雨の爲め流失せし豆毛浦火鍋峴の橋は同地屯在の騎兵隊に於て再架中なりしが一昨日午後七時落成したり

●七月中の氣候 客月中仁川觀測所にて觀測したる結果は昨年及平年七月に於ける氣候を比較すれば左の如し

	四十一年	四十年	平年
平均氣溫「華氏」	七三、三	七三、八	七四、八
平均最高氣溫「同」	七八、八	八二、七	八二、五
平均最低氣溫「同」	六八、九	六七、八	六九、一
高極氣溫「同」	八五、八	九二、四	八六、二
同上起日	廿四日	十八日	廿六年廿五日
低極氣溫「同」	五八、一	六二、五	五三、九
同上起日	六日	三日	廿四年
晴天日數	五	七	一〇
曇天日數	一六	一四	一二
雨天日數	一四	一〇	一三
雨雪量	四四、三	八九、三	一八一、七

即本年平均氣溫は昨年より一度平年より二度平均最高は昨年及平年に比し共に約三度平均最低は昨年より一度平年より二度高極氣溫は昨年より六度低極氣溫は三度低し之を要するに本年は昨年及平年より一般に低度なりき晴天日數は昨年より二日平年より五日少く雨天日數に至ては昨年より四日平年より一日多し而して降水量は明治二十年來未曾有の大量にして既往に於て最多かりし明治三十年の四五二、一粍に比し實に二一二粍昨年に比し三百六十五粍平年に比し約二百七十三粍の多量なりし(觀測所報)

●聽診機 斯う見ゑても憚りながら玄海灘の狂瀾怒濤を乘り越へ遙々韓國三界迄渡つて來た兄哥だ金の生る樹の無い限りは少し位い惡い事や細くないことを遣つゝけたとて何のべら棒な構ふ事があるものか第一日本の飯一粒でも喰はねーのが日本に對して忠義の一ツだタトイれ一二の藥屋こそ仕て居るものゝ此れでも善く言へア韓國經營者の一人され一二で儲けた其の金で今に俺が理想の滿韓貿易會社でも建てゝ其の社長にでもならうものならソレこそ此方のもの故鄕の奴等に一泡吹かせてロアングリと させるのもマヅ五六年の後かなと只管將來の空想を夢みつゝあるも偶には我に歸りて其の張り上ぐる胴羅聲にた一二の足拍子も甚麼やら狂ひ勝なる左る賣藥會子ありと思召せサテ此の將來賴もしき志望を抱き居るた一二先生は年の頃四十前後とも覺しく其の角張りたる顔にチョッピリと鼠の髯程の髭を生やした所は甚麼見ても孫子の代迄出世の仕やうのない人相なるが人は見掛に依らぬもの此の先生なか〳〵商賣には拔目なく仲間のものが一圓儲くる所は二圓儲け二圓儲くる所は三圓儲くるといふ辣腕者從て主人も平素可愛がり居りしがサテ其儲け口の方法は何んなものかと聞くに先生幸ひ韓語のチョッコン行ける所から重もに韓人部落を練り廻り一軒でも藥を買つて呉れる家には遠慮なくドシ〳〵上りて患者に接し懷の中より至つて如何はしき聽診機を取り出しさも勿体を附けて患者の胸部やら腹部に當て頓てオホンと濟まして一服附け烟を輪に吹きながら實は此の病氣はなか〳〵に重く二日や三日で癒るものではなければ毎日つづいて此の藥を用ひられよ自分は日本の醫師なれば安心して少しも疑のなきやう信頼さるべしと誠しやかに述べ立つるより愚昧なる韓人共は我も〳〵と此のれ一二の藥を買ひ居れるが其の結果先生近來は大分貯金も出來ホク〳〵ものなりとかの噂なるがマツ此の分ならば茲一兩年を出ですして其の理想せる滿韓貿易會社の社長殿となるべしとの投書のまゝを

●李贊鎬の不都合 大同會にては商務局を置き前憲兵正尉李贊鎬なるもの商務局長となり金光植、姜厚善の二名は顧問として日本人渡邊質玄、高橋某の二名をして金錢受領の任務を執らしめつゝあるが昨年來李世榮より二百五十圓、張甫均より百八十圓を入會金として李、金、姜三名の前に提供せしめたるのみならず尹遊なるもの入會りしが李贊鎬は前憲兵正尉なりしを奇貨として入會以來自分は大日本憲兵司令部の探偵なりと稱して會内に於ける自己の勢力を扶植するに務め居れるも我駐箚憲兵隊にては同人を探偵などに使用せしこと曾てなき由にて例のヨボ的奸策に出でたるものなりとて我憲兵隊にて少からず迷惑し居れり

●無免許の玉轉し 黃金町四番戸江口熊次は玉轉しを營み居りしも玉の如く甘い儲けも轉がりて來ぬより今日も遊び明日も遊びと食潰した揚句が四苦八苦さて如何したものであろうと青息赤息の眞最中同居の岡山縣生れの山本蜂吉と云ふものが之を讓り受くることゝなり俺の腕前で儲けて見せるからと其日より玉轉しを初めたが別に何等の商賣品の飾られたるにあらず如何見ても韓人相手の狂言なるべしと見込み警官出張引致の上取調べしに見込みの如く無免許營業而かも韓人相手の賭博を働きたるものなること判明したれば嚴しく說諭の上放還されたり



●靴工の醉狂 昨日午前四時頃警官が長谷川町料理屋開月にて一人の男が皿を投げ德利を割り酌婦を撲ぐるなど大立廻りをなし居り廻回の巡査は此物音を聞付け直ちに取調べしに此男は太平町尾張屋内靴製造人山本繁太郎(三十)といふ岡山生れの者にて四時間前より來りて飲酒し一個四十五錢の勘定となりたるが高いとか酒が惡いとか文句を付け果ては酌婦に喰つてかゝり亂暴を働きたる次第なること判明したれば警官は山本が懷中せる一圓十二錢五厘を支拂はせ殘金は山本同道の上同人方にて受取るべしとの說諭にて事濟となりたり

●本町座今晩の狂言 一番目「慈軍人」二番目「千本櫻道行」重なる役割は令嬢れ高(今井)大野壽文(石巻)壯士西岡(葉山)同宮永(土居)樋口大尉(田宮)德田(南鄕)大野進之助(中川)乳母れ才(小泉)近藤(秋山)百姓太平(喜多)夫人定子(三浦)小間使れ松(四位野)女中れ竹(島村)下男善助(白川)

●取消 八月五日發刊の三面記事中に釀造酒發賣を爲したるにより其筋の發見する所となり昨日警察の捕縛する處となりたりと云々の記事は事實の概要に全然相違せるにつき御取消相成度事實の概要左に旅蜂葡萄酒は元來龍山の川眞田商店が釀造にして當店は只其販賣を依托せられたるものなり品質の善惡等も無經驗なる拙者は頓に預り不知然るに大韓病院の試驗の結果飲料に不適合なるものと認められ殘品全部拋棄し販賣中止せられたるのみ決して拙店の釀造にかゝる品ならず且は其筋の何等賞を受くるに有之不申候間可然御取消相成此段奉願候 八月五日 旭町一丁目 益田兵之助 京城新聞編輯部御中

天氣豫報(自五日午後六時至六日午後六時)

西の風晴後ち曇

五日午前六時各地氣象概況 各地靜穩にして京仁及平壤には濃霧起れり

電話番號變更 電話二十九番

高等洋服裁縫 西岡支店 京城長谷川町一丁目

東京日本橋區通二丁目十二番地 西岡本店 電話本局二六八九

老妓 茶界犬の身上話（七）

◎團十郎に酢を飲す

ツンナ方ですから定めて座敷も勤め惡くからうと思召すは存じませんが夫れが大違いで藝妓いちやなどはコレッポッチだつて爲た事はムいません妾達などは何の位遊ばして頂いたかしれやしませんワですケド氣はつまりまして何しろ芝居道の神樣といはれた程の名ですから藝事に掛けては何でも知つていれるだけ此方も萬更チャカ〳〵ペコ〳〵れ座を濁す譯には參りませんから何時したか團十郎さんがれ座興に保名狂亂をるといふので妾が地に廻つた事がムいましたが日頃氣を呑まれて居た爲でしたらう彼のツラよさの泊りは何處が泊りぞチン〳〵ツンツン草を敷寢の肱枕といふ所がムいましよう其チン〳〵ツン〳〵を三度くり返して又よさの泊りに戻り如何しても次のくだりに這入らないので團十郎さんは踊を中途で廢して振り返り笑いながらヲイ〳〵れちやら何處まで行つたらよさの泊りになるのだといはれ飛んだ失策をやつちやいました多町の金萬さんといふ方が大の團十郎贔負でして予て團十郎を正客で其頭の通人御連中もれ宅へ招待申した事がムいました妾も其のれ席へ出ましたが成程團十郎さん贔負の膳部一切皆な成田屋好みの三升や瓢簞とか荒磯とかいつたものを利かしてれは〳〵大凝りでムいました御主人の金萬さんは如何にも嬉し悦こんで落ち〳〵坐つても居られず何にかと家内の者に注意をして居りますうちにれ客樣の席が定まつたので一々れ酌をして廻り廳地（癇癪）さんの前に坐るとヲイれちやら其酒を吞んで見ねエナと杯を下すつたので何の氣も付かずれ受けをして憚りさまとれ酌を頂き口をつけると驚きました酒と思つた德利の中は宜い工合に燗の出來てる酢なんちやアありませんか其處で一座の皆樣を見ると何方も樣なれ顔付をなすつてれ杯を下に置いたなり眺めて入らつしやるかられ人の惡い廳地さんは默然つて居ず此りや我々を骨無にする御主人の御趣向だなョー〳〵大當り〳〵されつしやつて手を打つてれ笑いなさるのです團十郎さんも酢の御馳走には烏渡困つて入らつしやつた樣でしたが妾を呼んで內々ら此れは勝手元で間違つた事と思ふから往つて注意て來てやれとれつしやるので妾もソウと思つてた所でしたから直ぐれ勝手へ參つて見ますと德利が五六本湯につかつてるのでムいます其中の一ッを取り出し一番の方に貴方此御酒を召し上つて見て下さいナといふと妙な顔をなすつて其れ酒が如何かしましたかと猪口に注いで一口呑むか呑まないに青くなつちまいまして予此れはマア何どもハヤ申譯の無い事で……と謝りました

▲新聞料 一枚金五錢 ▲一ヶ月前金卅五錢 ▲三ヶ月前金壹圓 ▲六ヶ月前金貳圓 ▲郵稅一ヶ月金拾錢
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回四十錢 ▲特別廣告五號活字十九字詰一行金五十錢

發行兼編輯人 秋山忠三郎
印刷人 高木久馬太
發行所 京城西署西小門通 京城新聞社 電話六六三番